

編集 環境パートナーシップちば
 代表 桑波田 和子
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (一財)千葉県環境財団事務局
 環境活動支援課気付
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969



だより

— つながれ ひろがれ —

第21回「エコメッセ2016 in ちば」開催報告 ～みつけよう私のCOOL CHOICE～

エコメッセちば実行委員会 委員長 桑波田 和子

9月22日(木・祝)第21回「エコメッセ2016 in ちば」を開催しました。ご来場、ご出展、ご協賛の皆さま、感謝申し上げます。

開催前は台風16号の進路に気をもみました。台風直撃の心配は外れましたが、秋雨前線の影響もあり、雨のエコメッセとなりました。悪天候にもかかわらず、8,500人の来場者をいただき、出展団体は100団体でした。長靴をはいた子どもたちの姿に、「ようこそエコメッセへ！」と声をかけてしまいました。大多喜、館山などに、大雨警報等がでていたことを閉会后知りました。

気候変動が珍しくないと感じる近年です。地球温暖化の影響も関わることを思えば、私たちにできること、やるべきことを・・と気をはやる方は多いと思います。エコメッセの今年のテーマは、みつけよう私のCOOL CHOICEです。

環境省は「COOL CHOICE」(未来のために賢く選ぼう <http://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/>)を国民運動に！と掲げています。が、なかなか身近に届いていない気がします。会場では、COOL CHOICE登録団体のブースに、カードを貼りました。当実行委員会も登録しています。また、当日登録を呼び掛けた結果374人の個人の方が登録されました。

エコメッセでは、子どもから大人まで楽しく体験し、出展者との意見交換等を通して、学ぶことができます。この気づきから行動する人を期待して、出展団体では、体験・お客様とのやり取りなど、どこのブースも賑わっていました。

主にこども対象として、「いま、気候に何が起きている？」では、ソラヨミ教室が開かれ、雲を見てお天気を予想するなど、クイズ、実験を通し「なるほど！」の顔が印象的でした。また、昭和基地の組み立て体験など南極の世界が広がっていました。

「越冬隊員に聞く」はbay fm公開録音となり、10月3日～6日のLove our bay(11:53～

58)で放送されます。また、「風船から学ぶ自然の仕組み」では、風船ゲームを通して自然の仕組みと社会のルールが楽しく学べるように工夫されていました。

セミナーでは、「ZEHと健康」、「大学生が取り組む3R活動」がありました。大学生の取り組みでは参加者から活動へのアドバイスもありました。

※ZEH：省エネ・創エネ(太陽光発電など)を取り入れた次世代住宅

雨の影響を強く受けた、屋外のエコカー等、展示・試乗会でしたが、試乗など予定通り体験されたそうです。

今年のスタンプ・シールラリーは、スタンプをいただきながら、一番COOL CHOICEと思う出展団体にシールを貼り、閉会前に集計をして、エコステージで発表しました。

1位 花王カスタマーケティング(株)、2位 環境パートナーシップちば、3位 千葉県水質保全課でした。

最後に環境パートナーシップちばは、千葉県環境講座「子ども環境会議ちば」を開催し、ブースでは、環境アートフロッタージュの体験を行い、両方とも大盛況でした。

無事に終了したエコメッセですが、当日は、高校生・大学生他約50名のボランティアのご支援もいただき、運営しました。資金面は、出展料、協賛金、ちば環境再生基金の補助などです。

来年のエコメッセは、平成29年10月9日(月・祝)幕張メッセで開催の予定です。みなさまのご予定に入れていただければ幸いです。



エコmesse 2016 in ちば

「アートフロッタージュ」出展の記

9月22日(木・祝)10時から16時まで、幕張メッセ国際環境会議場で開催された標記のブースで「環境リサイクル工作とアートのコラボレーション」を目的に主として子供を対象に出展した。

この企画の提案・指導者が参加できなくなったため、改めて担当者の補充と再トレーニングで当日を迎えた。当日は台風16号の影響で朝から強雨の天候のため、来展者が少ないのではないかと案じていたが予想外に入場者が多く、ブース訪問者も沢山あり、休まる暇もないほどであった。

あらかじめブースに準備したハガキ大の段ボール片、障子紙、木の葉、クレパス、のり等を使って作品を作成する作業工程である。挑戦者も幼稚園児から大人まで多種多様であった。段ボール面内の波状型穴に先の細い箸で片面の紙を刺し少しずつ剥がすが、幼少児はなかでできず手伝う親もあったが手伝わない親が多かった。次の参加者のため早く仕上げるようメンバーで手伝うことが多々あった。障子紙を使って木の葉フロッタージュを作る工程を子供らはうれしそうにクレパスで塗っていた。

人気が良かったことからかブース来訪者も150名を超え、閉展前に材料がなくなる状態であった。この人気から担当スタッフはブース見学もほとんど回れない状態であった。

閉会后、桑波田実行委員長から、我々のブースのCOOL CHOICE投票結果が第2位だったとのこと聞き、出展の大成功を感じた。

(文責 吉田 陸)



28年度千葉県環境講座報告

“夏休み 親子で作ろう！かわいい！カラフル！エコはがき”

7月28日(木)、市原市五井会館を会場に、リサイクル工作「親子で作ろう！かわいい！カラフル！エコはがき」の講師をさせていただきました。当日は、小学生の親子37人が集まり、牛乳パックからパルプを取り出し、ハガキ作りを行いました。

まずは、煮た牛乳パックの表面にコーティングされたシートをはがすところから体験しました。中から出てくる白い紙が、バージンパルプです。小さくやぶき、ミキサーで「ふわふわ」にほぐします。それをハガキ1枚分の量のお団子にして皆さんにお見せしました。お団子は、事前にたくさん準備してあり、それを全員が水を入れたペットボトルの中に入れてかくはんします。お花紙で色を付け、ハガキ型にすき込み、水分を絞ってアイロンで乾かしました。1枚作って要領を得ると2枚目、3枚目と、全員がお花紙を混ぜたり、枠の中で色を混ぜて模様を作るなど工夫をこらして作っていました。ふりかえりは、輪になって自分たちで作ったハガキの成果を見せ合いました。アイロンが間に合わなかった方々には、「ぬれたままタオルに挟んで持ち帰り、窓に貼って乾かすと省工

ネで仕上がりも良い」とお勧めしました。

リサイクル工作は、工作を体験することで、再生の仕組みを知り、再生の大切さを知ることが重要だと思います。リサイクル製品を選び使うことが資源循環につながるのですが、何でもリサイクルすれば良いわけではないこともお伝えしました。講座アンケートでは、大人も子どもも参加者ほぼ全員が「大変満足」という結果でほっとしました。多くの方々に楽しんでもらえて幸いです。どうもありがとうございました。

(文責：広田 由紀江)



28年度千葉県環境講座報告

“夏休み自然環境学習「海の生きものに会える日」

8月4日(木)、自然環境学習「海の生きものに会える日」を、「南房総市大房岬自然の家」で所長神保清司氏を講師に実施しました。当日は、本当に天候と海況に恵まれた一日でした。

講師から、①大房の海の磯場にはたくさんの生き物が住んでいること、②磯には、流れ着く様々な漂流物とともに様々な生き物の骨が埋まっていること、③潮溜まりでの観察には安全確保のための注意をする必要があること等をお聞きした後、子供はライフジャケット着用し、お借りした観察用採集道具(バケツ、アミ、箱メガネ)を持って、磯へ移動しました。途中、森の道を下っていくと斜面に無数の穴があり、アカテガニのすみかだと教えてもらいました。

海が大好きで、ほっておいても生き物と会っている子や、お母さんが促して用心して海を探検する子など様々なお子さんや保護者の中で、講師の丁寧なご指導により全員が満足していただけたように思います。

後日、参加者から以下のお手紙をいただきました。以下、部分引用させていただきます。

『千葉からバスで大房岬へ行き、とても驚きま

した。空が、海が、大きく広がり、キラキラと輝いていました。海の中に入って、生き物を触れたり探したりして、子供はとても感動していました。ライフジャケットを着てザブザブと水に入り、魚を見つけたり、ウニを手のひらに乗せて、小さい足で動く様子を見たり。たまにごみを見つけては、「困るねえ。生き物にも迷惑だよね。」と話していました。

缶やビニール袋、プラスチックのかけら。この場に少しでもないようにしたいですね。ウミガメやクジラの、骨が浜に流れ着く話を聞けました。

大きな生き物、小さな生き物、自分たちも含めて、地球の生き物として共に生きていけるようにしたいね、と親子で話し合いました。』



(文責 川島 謙治)

夏休み自然環境学習一里山体験報告

千葉県主催環境講座の中で、8月19日に標題の講座を開催しました。

会場は、富里市にある「NPO富里のホタル」の活動地である天神谷津です。県内小学校4年～6年生30名が参加、千葉駅前の集合場所で保護者から児童を預かり会場までバスで移動しました。

講座は富里のホタル会員スタッフが講師を担当され、受講生を二班に分け、次のカリキュラムを午前・午後で交互に体験しました。

I 里山にあるものを使って、ものづくり。

II 里山の生き物と湧き水たんけん。

ものづくり会場は、里山仕様で設営された丸太の玉切りに板を載せたテーブルと椅子です。用意された青竹をノコギリやナタを駆使、不慣れな手付きでスタッフの指導を仰ぎ花器や食器作りを体験しました。中でもパチンコ遊びは超人気。里山仕様の射的場がセットされ、皆が見事に的へ命中?でした。

生き物と湧き水たんけん会場は谷津のフィールドです。長靴に履き替え講師から谷津の地形について説明を受け、以下盛り沢山の体験学習をしました。

①湧き水と水路の水温変化をクイズ形式で調査。

②いきもの採集と観察。

(採集成果)、バッタやイナゴ、水中昆虫のヤゴ、日本アカガエル、水路のシジミその他

③生態系ピラミッドの話で食物連鎖や絶滅危惧種という言葉を知る。

④生き物の保護、採集した生き物はすべて谷津に帰して生態系維持。

体験学習を通して、天神谷津は、生態系ピラミッドが確立された貴重な環境の里山であることを理解し一日の学習を終えました。

自然環境を次世代につなぐということは、今回のような体験講座で広く普及させることも必要であり、また、草の根運動的な地道な保全活動の継続も必要と感じました。(文責 萩原 耕作)



生き物探し



竹を切る

「環境研究センターの最新の調査・研究の紹介」

今、県民が気になる、知りたい環境の話題について、環境研究センター講師5人をお呼びして、講座を開催しました。まず、5人の講演を聞き、その後、講演ごとに5つのブースを設けました。参加者がもっと知りたいブースへ移動して、講師との意見交換会を行いました。プログラムは以下のようになります。

日時：8月11日（祝・木）10：00～12：30 会場：千葉県青少年女性会館大ホール

講師：千葉県環境研究センター研究員

講演：①チバニアソって何？ すごいことなのですね！

講師：地質環境研究室 風岡 修 主席研究員

②東京湾は、きれいになったの？

講師：水質環境研究室 飯村 晃 主任上席研究員

③PM2.5、やはり気になるその中身と近況

講師：大気騒音振動研究室 石井 克巳 主席研究員

④ミジンコを使って汚染チェック？

講師：廃棄物・化学物質研究室 山本 徹 主任上席研究員

⑤放射能！！千葉県のピフォーアフター

講師：大気騒音振動研究室 井上 智博 主席研究員

意見交換：研究テーマ（講演）ごとに分かれて、講師と意見交換

5人の講師は、最新の研究話題を、20分間という短い時間の中、導入や専門用語などを参加者に分かりやすく説明されました。地質・水質・大気・生物指標など、千葉県の環境の状況が見えてきました。また、研究センターの重要性も見え、これからの研究を県民のためにも活躍して欲しいと期待したいと思います。

5つのブースでは、講師と活発に意見交換されましたので、一部ご紹介します。

【講演テーマ①】

Q：いつ認定されるか？

A：2016年9月と言われているがイタリアが待ったをかけている。

Q：現場で磁石で測れるの？

A：普通の磁石では測れない

【講演テーマ②】

Q：東京湾は海流や潮の満ち引き等で、海を浄化していると思うが、どれくらいの期間で浄化は進むのか？

A：大体2～3週間で浄化される。

Q：マイクロプラスチックが生き物に害を与えているが、国や県は規制しないのか？

A：国や県の規制は今のところない。

【講演テーマ③】

Q：レセプターモデルによる発生源寄与について

A：市原工場地域と勝浦のようなバックランド地域では、寄与の変化がなく広域的に発生する硫

酸塩があり、地域的に変化があるあるものでは石油燃焼の発生源が際立って見られる。

【講演テーマ④】

Q：今後水質のBODやCODに代わる指標になるのか？

A：検討会では、いま検討されているところである。3種類の生物でくみあわせて水の毒性を判定できる

【講演テーマ⑤】

Q：事故当時自分は宮城県にいたが、津波の被害の方が大きく、放射能に関する情報やデータがしっかりと伝わってこなかったのが残念。信頼できるデータソースを教えてください。

A：「日本の環境放射能と放射線」というホームページを紹介します。

また、アンケートからは、タイムリーなテーマで、詳細なデータと説明で分かりやすかった。環境研究センターの事業について理解できた等満足されたようです。不満足では、短い時間に詰め込みすぎの印象があったとありました。

（文責：桑波田 和子）



環境講座全景



意見交換

リーダー養成講座 ～はじめの一步 この指とまれ～ が始まりました！

千葉県内でリーダーとして活動している人・これからリーダーになる人を対象にリーダー養成講座第1回は、9月11日(日)「明日から使えるKP法」-KP法で学ぶリーダーのためのコミュニケーション・ファシリテーション-として、講師に日本環境教育フォーラム代表の川嶋直(ただし)氏をお迎えして千葉県青少年女性会館(千葉市稲毛区)で開催しました。

KP(紙芝居プレゼンテーション)法の説明後、講師を知っているかのGCP(グーチョキパー)アンケートで受講生の気持ちをつかみ、KP書く・話すためのマーカーの使い方練習後に、実践として、グループの受講生同士で「自己紹介」KPをしました。川嶋講師の自己紹介は、清里の自然の中での教育活動歴等でした。その後「伝えること」について考え、「聞いた事は忘れる」「見た事は覚える」「やった事はわかる」「発見した事はできる」の体験と発見が大切で「言ったらわかる」と思うのは、傲慢で、「伝えるためにはあらゆる工夫を」というお話にも納得でした。教育から環境教育の熱いKP後は、午後からの「やってみようKP法」

(写真参照)で一人一人が「今一番気になっていること・伝えたいこと・私の好きな○○○」などのテーマで発表しあいました。

次回11月5日(土)に向けて「最新環境情報」取材してKP法で伝えよう」という課題も出されて終了となりました。新規申込みも受け付けています。ぜひ参加してください。

(文責 横山 清美)



「第21回 東京23区とことん討論会」に参加しました

プラスチックスープの海

第21回とことん討論会が7月29日(金)、千代田区役所で開催されました。基調講演は、高田秀重氏(東京農工大学農学部環境資源科学科教授)による「プラスチックスープの海とプラごみ削減-プラ混じりの魚、食べますか?-」でした。

プラスチックは、石油から作った安っぽい素材の代表。おっと「安っぽい」なんてプラスチックに対して失礼ですね。木や鉄、また綿など、様々な天然素材の手軽な代替素材として、柔軟に姿形を変えリーズナブルな雑貨や衣類など利便性を提供してくれています。

しかし、それがスープとなるとどうでしょう。スープは世界中、古今東西、それぞれの食文化の中で最もポピュラーな料理であり、食とは命の源です。

この違和感ある二つの言葉「プラスチックスープ」。なんとも「キショクワルイ」。そして、今現在、海がプラスチックスープになっている。不気味さと危機感を抱く感受性がまず必要です。

推定、海鳥の90%がプラスチックを誤食

石油産出量の8%がプラスチックとなり、年間3億トンのプラスチックが世界で生産されている。

日本では、ペットボトルの83%がリサイクルされているが、その他が自然界環境に放出されている。海から遠いと思っても、陸上でのポイ捨て、迷子のゴミが太平洋の海ゴミになっている。プラスチックは紫外線や波の力でどんどん小片化、微細化し、海中や海底に広がりたまっていく。海鳥だと約90%がプラスチックを誤食していると推定されている。500gの海鳥の体内から0.6gのプラスチックが出てきたが、人間だと約60g、両掌でおわんにして軽く1杯ほどの量になるという。さらにプラスチックの毒性が生物濃縮し、その悪影響は計り知れないこと、海の環境改善対策が困難なこと、海は(海底も含め)私たちの日常生活から遠く関心も薄い。海ごみ問題の困難さには絶望感さえ覚えました。「予防原則」が大事で、後から手当するのではなく、事前に防ぐことが重要だとのことでした。



ごみは分別するだけでは減りません！

すでに世界中の海に、深海にまで大量に放出されてしまっている海ゴミ。推定90%の海鳥がプラスチックを誤食している。私たち一人一人がすべきことは、何ですか？ (文責 中村 明子)

平成28年度千葉県環境講座のご案内（10月～1月）

主催：千葉県、実施：環境パートナーシップちば、参加費：無料

テーマ	内容	日時	講師	場所	対象/定員	申込締切
森の観察会 なるほど！これが木の生命力	森を歩き、木の生命力の不思議さなど、発見・体験します。	10月22日 (土) 9時30分～12時	森浩也氏(樹木医・千葉県北部林業事務所)	佐倉城址公園(佐倉市)	千葉県在住の18歳以上の方/ 25名	10月8日17時まで
体験活動 太陽熱温水器を作ろう	太陽熱温水器模型を作って水温を測り、熱エネルギーを実感します。	11月19日 (土) 13時30分～16時	春田育男氏(温暖化防止なごれやま代表)	さわやかちば県民プラザ(柏市)	千葉県在住の小学1～6年生の親子20組/ 40名	11月5日17時まで
講演 ローマ法王に米を食べさせた男	地域の宝に気づき、宝を活かして地域の環境を守るヒントが見つかります。	11月20日 (日) 13時30分～15時30分	高野誠鮮(じょうせん)氏(羽咋市元職員・立正大学客員教授)	千葉県教育会館新館5階501会議室	千葉県在住の18歳以上の方/ 100名	11月6日17時まで
講演 生活の中にある化学物質リスク	化学物質のリスクについての講演です。	12月11日 (日) 10時～12時	千葉県環境研究センター職員 内藤季和氏・半野勝正氏	浦安市中央公民館	千葉県在住の18歳以上の方/ 40名	11月27日17時まで
講演・体験活動 海に漂うマイクロプラスチックの脅威	今、プラスチックが海の中で化学物質汚染を引き起こしています。	12月11日 (日) 13時30分～15時30分	高田秀重氏(東京農工大学環境資源科学科)	浦安市中央公民館	千葉県在住の18歳以上の方/ 60名	11月27日17時まで
バスで行く施設見学 最新！ゴミ発電見学と老舗！蔵元見学	ゴミから発電に取り組む最新施設 清掃工場見学と老舗蔵元の酒造りを見学します。	1月19日 (木) 9時～16時	※JR千葉駅集合・解散のバスツアーです。	成田・富里 いずみ清掃工場・飯沼本家(株)	千葉県在住の18歳以上の方/ 40名	1月5日17時まで

参加ご希望の方は、(メール・FAX・往復はがき)のいずれかで以下の内容をご記入の上、お申込みください。定員を超えた場合は、申込締切後抽選となります。

■メールでお申込み kenkouza@kanpachiba.com

■FAXでお申込み 043-246-6969

■往復ハガキ(住所は下記)

・お問い合わせ先：

環境パートナーシップちば 千葉県環境講座事務局

〒260-0024 千葉市中央区1-11-1(一財)千葉県環境財団業務部環境活動支援課気付

TEL 090-8116-4633 ※土日・祝日を除く、平日9時から17時まで

(1)参加希望講座名 (2)参加者氏名・全員(ふりがな) (3)性別 (4)年齢 (5)住所 (6)電話番号(携帯) (7)FAX番号 (8)メールアドレス

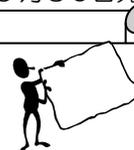
本事業は、千葉県が環境パートナーシップちばに委託し、実施する事業です。

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 35 —

おききました！ この人・この団体

メイク松戸ビューティフル

会長 戸田 栄造



平成4年9月松戸市倫理法人会の新年度がスタートした。新しい年度にふさわしく私たち経営者の学びの実践としてスタートしたのが会場周りの掃き掃除だった。

だんだん日が短くなってきた中で気持ちの爽やかさが私たち役員を心を満たしてくれた。もっとこの輪を広げようと松戸駅前清掃へと進化をした。

清掃していると道行く人からの声掛けが嬉しかった。「おはようございます。ご苦労様、ありがとうございます」と声を掛けられるとお返しするのが当たり前で「おはようございます！行ってらっしゃい！お気をつけて！」となる。

この短い会話がお互いのきずなを作っていく。そうだこの輪を広げようと他団体にも声掛けをした。ところが当時は松戸市倫理法人会なんて誰も分からない。どっかの宗教団体？なんて誤解もされてしまった。ここで引き下がる訳にはいかない。

松戸駅周辺をきれいにするために駅頭での声掛けを始めた。一週間足らずで7500人の署名が集まった。早速これを川井市長に市民の声としてお届けをした。

即、返事がきて公募市民3名と松戸青年会議所をはじめ7団体が集められ会合がもたれた。そこで言い出しっぺが座長をやれとの指名があり、静岡大学の教授の指導のもと会がスタートした。

会の名は「松戸市空き缶などの散乱防止対策市民会議」役所らしい硬いネーミングだった。進行役をしながらどうも固い。もっとお洒落な名にできないか？みんなで検討した。すると聖徳大学の

委員が『メイク松戸ビューティフル』との提案があり、即決まった。会の運営もラフになり、いろんな声が出て、半年ごとに計4回市長に提言書を提出することができた。議論するばかりではなくプレーヤーになろうと会が動き始めた。

まず、一向に減らないごみを何とかしようと倫理の運動と合わせ月二回の清掃が始まった。動き始めたらおもしろい！新たな発想が次々に生まれた。

どんなごみがどんな場所にどれだけ捨てられているかで生活スタイルが見えてくるポイ捨てウォッチング、瓶、缶、美化、やればできる、をもちってBeCan（美化）フォーラム、他市の美化活動団体との交流、美化の標語募集、日本の百名山清掃登山、松戸から清水公園までの25キロウォーク、環境施設見学などを実施し、松戸市内での各種イベントに参加をし、ゴミの持ち帰りや『やめようポイ捨て』を訴え続けた。

そして新たなNPO団体松戸エコマネー『アウル』の会を立ち上げ、商店会の活性化、ボランティア運動の促進、環境改善活動がどんどん進化をしている。14年前にできた『松戸市安全で快適なまちづくり条例』の提案者にもなった。

更に過日、環境大臣から思いもかけずに功労者表彰を受けることができた。これも会員ばかりではなく、多くの参加市民の協力のお陰様だ。24年間の歴史と言えるのかも？ ありがたいことです！



運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを info@kanpachiba.com にお知らせください。
(広報部)

8月運営委員会

日時 8月10日(水) 18:00~19:30

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・だより110号発送
- ・印旛沼流域環境・体験フェア市民企画部会開催(8/3)
- ・ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦(7/12)
- ・千葉県環境講座開催(7/28・8/4)
- ・千葉県総合計画意見交換会参加(8/1)

【協議】

- ・エコメッセ2016inちば出展者説明会(8/22)
- ・環境子ども会議ちば開催9/22(8/14打ち合わせ)
- ・NPO法人設立準備会設置 ・環境講座について
- ・だより111号 ・ちば環境再生推進委員の推薦
- ・その他

9月運営委員会

日時 9月14日(水) 18:00~20:30

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・エコメッセ2016inちば出展者説明会(8/22)
- ・NPO法人取得に関する学び(8/26)
- ・環境講座(8/11・8/19・9/11)
- ・ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦(9/13)
- ・いちはら環境フェスタ実行委員会(8/31)
- ・千葉県環境審議会企画部会(8/30)
- ・千葉県海岸漂着物対策推進協議会(9/6)
- ・千葉県環境審議会水環境部会(8/22)

【協議】

- ・エコメッセ2016inちば出展内容
- ・いちはら環境フェスタ(10/9)
- ・だより111号 ・Eポート千葉大会(10/16)
- ・その他

お知らせ

千葉県地球温暖化対策実行計画 ～(CO₂CO₂)スマートプラン～ が策定されました

- ・計画期間：2016年度～2030年年度
- ・温室効果ガス排出量の削減率：2030年度に2013年度比22パーセント削減
- ・取組目標：家庭、事務所、店舗等、製造業、運輸貨物の4本主体で策定

詳細は、千葉県HP

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/press/2016/co2co2plan.html>

いちはら環境フェスタ開催

日時：10月9日(日) 10:00~15:00

会場：市原市市民会館
(市原市惣社1丁目1-1)

主な内容：

市民団体・企業・学校・行政による環境保全活動やリサイクル推進に関する活動の展示、実演等
地産地消コーナー(フードコーナー)、フリーマーケット 他

主催：いちはら環境フェスタ実行委員会・市原市

問い合わせなど：環境部 環境管理課 地球温暖化対策係 0436-23-9867

環境部 クリーン推進課 850・リサイクル係 0436-23-9053

https://www.city.ichihara.chiba.jp/kurashi/kankyoryokuka/kankyo/ivent_jyouhou/kankyofestakouhou.html

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール: info@kanpachiba.com

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		